

この説明書は、ご利用の前に必ずお読みください。
また、必要な時に読めるように大切に保存してください。

解熱鎮痛薬

第②類医薬品

⚠ 使用上の注意

してはいけないこと

1. 次の人は服用しないこと
 - (1) 本剤によるアレルギー症状を起こしたことがある人。
 - (2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、かぜ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。
 - (3) 15歳未満の小児。
2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないこと。
 - (1) 他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬。
 - (2) 服用時は飲酒しないこと。
 - (3) 長期連用しないこと。

相談すること

1. 次の人は服用前に医師、歯科医師又は薬剤師に相談すること
 - (1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。
 - (2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。
 - (3) 授乳中の人。
 - (4) 高齢者。
 - (5) 本人又は家族がアレルギー体質の人。
 - (6) 薬によるアレルギー症状を起こしたことがある人。
 - (7) 次の診断を受けた人。

心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍

2. 次の場合は、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師又は薬剤師に相談すること。
 - (1) 服用後、次の症状があらわれた場合。

関係部位	症 状
皮 膚	発疹・発赤・かゆみ
消 化 器	悪心・嘔吐・食欲不振
精神神経系	めまい

(裏面もお読みください。)

まれに下記の重篤な症状が起こることがあります。その場合は直ちに医師の診断を受けること。

症状の名前	症 状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐにじんましん、浮腫、胸苦しさ等とともに、顔色が青白くなり、手足が冷たくなり冷や汗、息苦しさ等があらわれる。
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群) 中毒性表皮壊死症 (ライエル症候群)	高熱を伴って、発疹・発赤、火傷様等の水部暮れ等の激しい症状が、全身の皮ふ、口や目の粘膜にあらわれる。
肝臓機能障害	全身のだるさ、黄疸(皮ふや白目が黄色くなる)等があらわれる。
ぜんそく	

(2) 5～6回服用しても症状がよくなる場合。

【保管及び取り扱い上の注意】

- (1) 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に密栓して保管してください。
- (2) 小児の手の届かない所に保管してください。
- (3) 他の容器に入れ替えないでください。
(誤用の原因になったり品質が変わる。)
- (4) 表示の期限を過ぎたものは服用しないでください。

〈お問い合わせ先〉

本剤の使用により、何かお気付きの点がございましたら下記までご連絡ください。

富山薬品株式会社 (お客様相談口)

フリーダイヤル 0120-36-0139

月～金 9:00～17:00 (祝日を除く)

製造販売元 **富山薬品株式会社**

富山市四方西岩瀬石瀬175